

評価対象年度	平成28年度	<b>施策評価シート</b>		政策	2	施策	5
施策名		5	地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現	施策担当 部局	総務部、環境生活部、経済商工観光部、土木部、警察本部		
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	2	観光資源、知的資産を活用した商業・サービス産業の強化	評価担当 部局 (作成担当 課室)	経済商工観光部 (観光課)		

<b>施策の目的</b> (目標とする宮城の姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宮城の魅力が絶え間なく国内外に発信され、観光地みやぎのイメージが定着している。</li> <li>○ 自らの住む地域に誇りを持ち、観光のもたらす効果が県民に理解されるとともに、自然環境や食文化など地域の観光資源が磨き上げられ、観光客に対する質の高い受入体制が整っている。</li> <li>○ 外国人や高齢者、障害者、子ども連れなど、だれでも訪れやすい観光地づくりが進んでいる。</li> <li>○ 東北地方の観光の起点としての機能が強化され、東北各県と一体となって観光を推進している。</li> <li>○ 交流人口が拡大し、観光客入込数が2割程度増えている。</li> </ul>
<b>施策の方向</b> (「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」の行動方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 仙台空港民営化等を契機とし、本県の持つ東北のゲートウェイとしての機能を生かし、今後、東北各地で開催される大型観光キャンペーン等との連携により広域観光を充実させ、東北が一体となった誘客活動を推進する。</li> <li>◇ インターネットや新聞、旅行雑誌等、多様な媒体や訴求力のあるツールを活用し、誘客対象を明確にした上で、本県の持つ観光の魅力を発信し、教育旅行やインセンティブツアーの誘致など、観光消費効果の高い外国人観光客や中部以西からの誘客活動を推進する。</li> <li>◇ 本県への外国人観光客の誘致のために、積極的なプロモーション活動に加え、無料公衆無線LAN(フリーWi-Fi)の整備など、外国人が過ごしやすい環境整備など受入態勢を充実させる。</li> <li>◇ 温泉や食材、地域の自然など宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光を発掘し、観光ルートとして整備する。</li> <li>◇ 観光施設及び案内板・標識を整備するとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及を推進する。</li> <li>◇ 地域が主体的に観光振興に取り組む組織・体制づくりを強化するとともに、主体的に自らの地域の魅力を売り出していける人材づくりを推進する。</li> <li>◇ 都市と農山漁村が理解し合い、相互に支え合うグリーン・ツーリズムを目指し、推進環境の整備、人材育成、情報発信、地域活動の活性化を支援する。</li> <li>◇ 県内市町村や関係機関と連携し、観光推進組織を強化する。</li> </ul>

決算(見込)額 (千円)	年度	平成26年度 (決算額)	平成27年度 (決算額)	平成28年度 (決算(見込)額)	平成29年度 (決算(見込)額)
	県事業費		336,113	737,523	1,225,968

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

<b>目標指標等</b>	<b>■達成度</b> A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」						
	<b>■達成率(%)</b> フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)						
			初期値 (指標測定年度)	目標値 (指標測定年度)	実績値 (指標測定年度)	達成度 達成率	計画期間目標値 (指標測定年度)
	1	観光客入込数(万人)	5,679万人 (平成20年)	6,500万人 (平成27年)	6,066万人 (平成27年)	B 93.3%	6,700万人 (平成29年)
	2	観光消費額(億円)	5,751億円 (平成20年)	5,693億円 (平成27年)	4,536億円 (平成27年)	C 79.7%	6,000億円 (平成29年)
	3	外国人観光客宿泊者数(万人)	7.5万人 (平成24年)	13.5万人 (平成27年)	16.1万人 (平成27年)	A 119.3%	16万人 (平成29年)
4	主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口(万人)	868万人 (平成20年度)	1,297万人 (平成27年度)	1,298万人 (平成27年度)	A 100.1%	1,430万人 (平成29年度)	

■ 施策評価（原案）		概ね順調
<b>評価の理由</b>		
<b>目標指標等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ目の指標「観光客入込数」については、平成27年は目標値6,500万人に対して6,066万人(達成率93.3%)となった。これは達成度Bであるものの、初期値の平成20年5,679万人を超えるとともに、誘客キャンペーン等の各種観光施策に強力に取り組んだ結果、震災前の70%まで落ち込んだ平成23年以降着実に回復し、平成22年6,129万人の99.0%に達していることから、震災前の水準までほぼ回復しているものである。沿岸部では、嵩上げ等のインフラ復旧がなかなか進まず、宿泊施設の復旧が遅れていることなどから、依然として滞在型の観光客を受け入れることが出来ない地域もあり、観光客入込数は震災前の7割程度に止まったものの、内陸部では震災前を上回る入込数まで回復した圏域もあり、内陸部の着実な回復が全体の回復をリードした。</li> <li>・二つ目の指標「観光消費額」については、平成27年は目標値5,693億円に対し4,536億円(達成率79.7%)の達成度Cとなったものの、昨年と比較すると273億円(6.4%)増加するなど、平成23年以降、着実に回復してきており、一定の事業成果が認められる。費目別に見ると、前回やや減少した「宿泊費」が増加に転じた。また、「みやげ代」、「交通費」は前回調査と同様に増加した。</li> <li>・三つ目の指標「外国人観光客宿泊者数」については、昨年に引き続き順調に増加し、平成27年目標値13.5万人に対して、16.1万人(達成率119.3%)となった。これは震災前の水準まで回復するとともに全国と同じく過去最高を記録し、達成度はBからAへと上昇している。これは主要ターゲットである東アジア市場(台湾・韓国・香港・中国)を中心に、海外での旅行博覧会などで各種プロモーションや東北観光推進機構等と連携したインセンティブツアー誘致、東北六県の知事等によるトップセールスなどを積極的に実施し、国と連携した風評払拭に向けた事業などを展開したことによるもの。</li> <li>・四つ目の指標「主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口」については、主に農産物直売所の利用増により、目標を超えた実績となった。これは前年に引き続き達成度Aである。</li> </ul>	
<b>県民意識</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年調査における震災復興計画の分野3・取組2の調査結果について、「高重視群」の割合は平成27年調査に引き続き優先すべき施策としてのポイントは低下傾向であったが、平成28年の県民意識調査の「満足度」割合を見ると「満足群」の割合は38.4%と、分野3の他取組と比較して最も高いことから、震災以降の取組について一定の評価を受けているものと考えられる。</li> </ul>	
<b>社会経済情勢</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災による甚大な被害により集客施設が消失し、インフラの復旧が遅れている沿岸部は依然として厳しい環境にあるものの、引き続き復興事業関係者の入込による活況も見られる。一方、内陸部では震災前を上回る入込数まで回復した圏域もあり、内陸部の着実な回復が全体の回復をリードした。</li> <li>・平成28年度は、仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2016の実施や、中部以西からの誘客を促進するためSky Journey仙台・宮城キャンペーンを実施するなど県民が一体となったおもてなしにより、観光客入込数はほぼ震災前の水準に回復した。また、宿泊者数は沿岸被災地への復興需要等による特殊要因は徐々に落ち着きを見せてきているものの、仙台市内のホテル・旅館を中心に高い稼働率となっている。</li> </ul>	
<b>事業の成果等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸部の宿泊施設等をはじめとした観光施設の復旧・再建については、県単独の事業を活用して事業者の復旧費用に対する支援を積極的かつ継続的に行った。平成27年の沿岸部の観光客入込数は、前年より50万人増加し533万人となった。</li> <li>・風評の影響などによる観光客の落ち込み対策として、平成28年度には前年に引き続き仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2016の実施や伸び悩んでいる中部以西からの誘客を促進するためSky Journey仙台・宮城キャンペーンを実施するとともに被災沿岸部の観光誘客の促進及び震災の記憶の風化防止につながるため、「ポケモンGO」と連携したイベント「Explore Miyagi」の実施などにより、交流人口の回復に努めた。平成27年の観光消費額は、観光客入込数の増加に伴い前年より273億円増加し4,536億円となった。</li> <li>・震災後大きく落ち込んだ外国人観光客の誘致に向けて、主要ターゲットである東アジア市場(台湾・中国・韓国・香港)を中心に、海外旅行博覧会などの各種プロモーション、台湾市場での教育旅行誘致に向けた取組、東北観光推進機構等と連携したインセンティブツアーの誘致、国と連携した風評払拭に向けた情報発信事業の展開を行った。特に台湾においては東北六県及び新潟県の知事等によるトップセールスを実施したほか、情報発信機能を強化するため現地サポートデスクを設置するなど誘客促進を行った。また、外国人が過ごしやすい環境を整備するため宿泊施設や観光集客施設などに対して無料公衆無線LAN(フリーWi-Fi)整備に係る支援を行うなど各種施策に取り組んだ。</li> <li>・このように事業に取り組んだ成果は目標指標等にも着実に現れており、「外国人観光客宿泊者数」は、震災前の水準まで回復するとともに全国と同じく過去最高を記録し、達成度はBからAへと上昇、「主要な都市農村漁村交流拠点施設の利用人口」も前年に引き続き達成度Aである。</li> <li>・「観光客入込数」は達成度Bであるが、初期値の平成20年5,679万人を超えるとともに、震災前の水準までほぼ回復しているもの。また、「観光消費額」は、達成度Cとなったものの、昨年と比較すると273億円(6.4%)増加するなど、平成23年以降着実に回復してきており、一定の事業成果が認められる。</li> <li>・以上から、当施策の目標指標達成度はAが2つ、Bが1つ、Cが1つの評価となったが、震災以降、各目標指標は順調な回復・伸びを見せており、県民意識調査の「商業・観光の再生」の満足度の割合が比較的高いこと、また積極的な事業展開を行った実績などから、当該施策については、期待される成果がある程度発現しており、進捗状況も概ね順調と判断し、施策評価としては「概ね順調」とした。</li> </ul>	

※ 評価の視点： 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

<b>施策を推進する上での課題と対応方針（原案）</b>	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後に大きく落ち込んだ観光客入込数は、内陸部が回復をリードし県全体としては震災前の水準までほぼ回復傾向にあるものの、沿岸部については、嵩上げ等のインフラ整備の遅れが見られ、観光産業基盤の復興事業が長期に及ぶ懸念があるため、進捗に応じた事業者への息の長い支援が必要である。</li> <li>・東京電力福島第一原子力発電所事故の風評の影響の長期化と震災に対する記憶の風化が懸念される。また、平成28年の訪日外国人が2,400万人を越える中、原発事故の風評の影響だけではなく、放射線線量への反応が顕著である外国人観光客については回復が遅れており、正しい情報発信と安全・安心のPRが重要である。</li> <li>・日本人の国内観光旅行者数はほぼ震災前の水準まで回復する一方で、東北地方の観光客中心の宿泊施設の宿泊者数は回復が遅れている。また、東北地方が一体となって、回復傾向にある国内旅行者を東北地方に呼び込む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸部の事業者への継続的な支援に向けた支援メニューの着実な実施と事業者に寄り添ったきめ細やかな対応を行うとともに、震災により人口が減少している沿岸部の交流人口の拡大に向けて、引き続き海外からの教育旅行の誘致など「復興ツーリズム」の推進のほか観光資源や拠点となる施設の再生・創出の取組を進めていく。</li> <li>・外国人誘客については、正確で質の高い観光情報の提供や観光案内機能の強化を進め、風評の影響の緩和を図るとともに、フリーWi-Fiや多言語案内の充実など外国人観光客が旅行しやすい環境整備を促進し、大幅に増加している訪日外国人観光客の誘客を図っていく。また、様々な媒体を活用した観光情報の発信やプロモーション活動の強化、航空会社等民間事業者との連携などにより、国内外からの教育旅行やインセンティブツアーの誘致などを推進するとともに多様な観光メニューの提供や観光を担う人材の育成、DMO(観光地域づくりの中心となる組織)の設立支援等により、観光資源の魅力の向上や外国人の観光客の受入態勢の整備を図っていく。</li> <li>・東北のゲートウェイとしての本県の機能を活かし、民営化した仙台空港の運営会社をはじめ、東北各県や関係諸団体と連携し、東北が一体となった広域観光の充実を図り、国内外の旅行者を呼び込んでいく。</li> </ul>

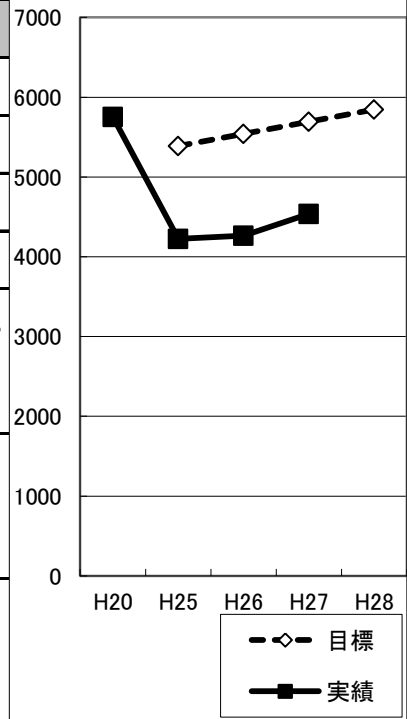
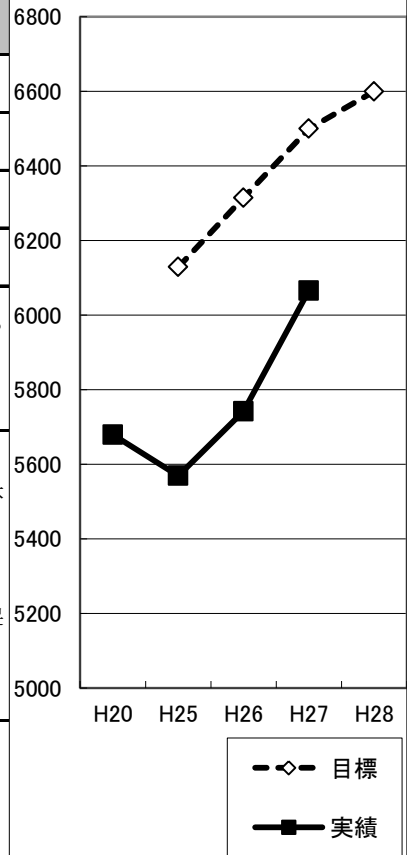
評価対象年度 平成28年度

政策 2 施策 5

**目標指標等の状況**

■達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)  
 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)

1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	観光客入込数(万人) [フロー型の指標] 宮城県観光統計による	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28
目標値		-	6,129	6,315	6,500	6,600	
実績値		5,679	5,569	5,742	6,066	-	
達成率		-	90.9%	90.9%	93.3%	-	
目標値の設定根拠	・東日本大震災の影響により、壊滅的な被害を受けた沿岸部の観光産業の再生を支援し、それを支える内陸部と連携を密にして被災地訪問と県内各地の観光資源とをつなぎ、落ち込みを早期に回復すべく誘客キャンペーン等の各種観光施策に取り組むこととし、平成29年の観光客入込数を、震災前を上回る6,700万人を目標として設定した。						
実績値の分析	・平成27年の観光客入込数は前年から約324万人増え、6,066万人となり震災前の99%まで回復した。 ・内陸部では震災前を上回る入込数まで回復した圏域もあり、内陸部の着実な回復が全体の回復をリードした。一方、沿岸部では、インフラ復旧がなかなか進まないことなどから、依然として滞在型の観光客を受け入れることが出来ない地域もあり、沿岸部(石巻・気仙沼圏域)の観光客入込数は震災前の約7割程度に止まった。この様な中であっても、平成28年度は夏に仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2016や、中部以西からの誘客を図るため Sky Journey仙台・宮城キャンペーン2016を実施するとともに、被災沿岸部の観光誘客の促進及び震災の記憶の風化防止につなげるため、「ポケモンGO」と連携してポケストップ追加企画「Explore Miyagi」の実施などにより誘客の成果が見られた。						
全国平均値や近隣他県等との比較							
2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	観光消費額(億円) [フロー型の指標] 宮城県観光統計による	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28
		目標値	-	5,387	5,540	5,693	5,846
		実績値	5,751	4,224	4,263	4,536	-
達成率		-	78.4%	76.9%	79.7%	-	
目標値の設定根拠	・東日本大震災の影響により、壊滅的な被害を受けた沿岸部の観光産業の再生を支援し、それを支える内陸部と連携を密にして被災地訪問と県内各地の観光資源とをつなぎ、落ち込みを早期に回復すべく誘客キャンペーン等の各種観光施策に取り組むこととし、平成29年の観光消費額を、観光客入込数の増加とあわせて6,000億円と設定した。						
実績値の分析	・震災以降、入込数は着実に回復しており、「観光消費額・観光による経済効果の推計」において、観光消費額は前年を上回り、4,536億円となった。 ・費目別においても、「宿泊費」、「飲食費」、「みやげ代」など全ての項目で増加した。						
全国平均値や近隣他県等との比較							



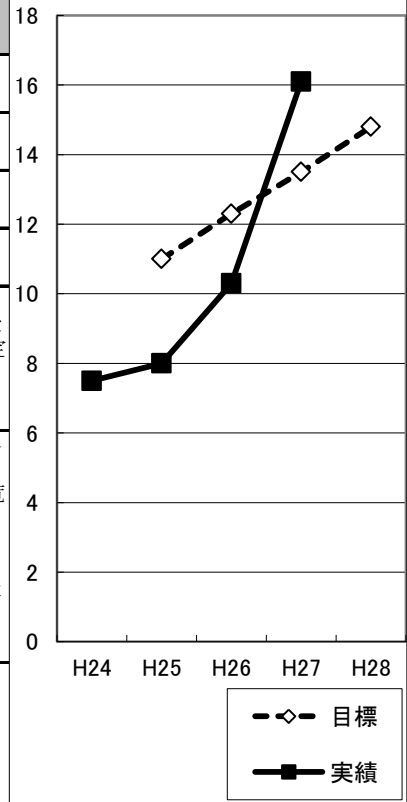
評価対象年度 平成28年度

政策 2 施策 5

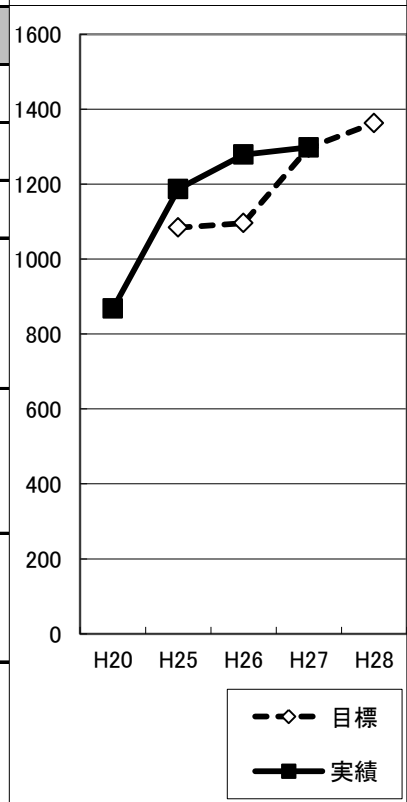
目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 ストック型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)  
 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

3	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29	
	外国人観光客宿泊者数(万人) [フロー型の指標] 観光庁宿泊旅行統計調査	指標測定年度	H24	H25	H26	H27	H28	
		目標値	-	11	12.3	13.5	14.8	
		実績値	7.5	8.0	10.3	16.1	-	
		達成率	-	72.7%	83.7%	119.3%	-	
目標値の設定根拠	・東日本大震災の発生と原発事故の風評の影響の長期化や放射線線量への反応が顕著である外国人観光客については、正しい情報発信と安全・安心のPRに継続して取り組むこととし、平成29年の外国人観光客宿泊者数を震災前の16万人まで戻すことを目標として設定した。							
実績値の分析	・平成27年の外国人観光客宿泊者数は、前年より約6万人増加し、震災前の水準に回復した。 ・主要ターゲットである東アジア市場(台湾・中国・韓国・香港)を中心に、海外での旅行博覧会などで各種プロモーションを積極的に実施するとともに、平成28年度は、東北観光推進機構等と連携したインセンティブツアーの誘致や国と連携した風評払拭に向けた事業などを展開し、特に台湾市場においては東北6県及び新潟県の知事等によるトップセールスを実施したほか、情報発信機能を強化するため現地サポートデスクを設置するなど誘客促進を行った。							
全国平均値や近隣他県等との比較	-							



4	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29	
	主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口(万人) [フロー型の指標] 都市と農山漁村の交流に係る主要な拠点施設(農林漁家民泊、民泊登録農林漁家、ワーキングホリデー受入農林漁家、農林漁家レストラン、農産物直売所及び公設宿泊施設)の利用者数	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28	
		目標値	-	1,084	1,096	1,297	1,363	
		実績値	868	1,187	1,279	1,298	-	
		達成率	-	109.5%	116.7%	100.1%	-	
目標値の設定根拠	・平成27年度に、交流拠点施設分類毎に、平成21～平成27における利用人口の推移から、年間の利用者増加数を算出し、平成28・平成29年度の目標を見直し設定した。							
実績値の分析	・農林漁家レストラン、農村物直売所の利用者が、この数年の伸び率には及ばないものの増加傾向が続いているため、交流人口全体としては目標値を上回っている。							
全国平均値や近隣他県等との比較	-							



評価対象年度	平成28年度
--------	--------

政策	2	施策	5
----	---	----	---

**宮城の将来ビジョン推進事業**

評価番号	事業番号	事業名	平成28年度 決算見込額 (千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
1	1	仙台・宮城観光 キャンペーン推進 事業	20,000	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体と協力して観光キャンペーンなどを実施する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・官民86団体が連携し、2年目となる夏の観光キャンペーンを実施した。また、平成28年度の夏の観光キャンペーンは、東日本旅客鉄道株式会社から重点販売地域の指定を受け、同社による大規模な宣伝展開や夏キャンペーン専用商品が販売された。</li> <li>・宣伝では、北海道新幹線の開業や仙台空港の民営化による鉄道と空路による東北のゲートウェイ機能が向上したことから、北海道道南地域や東北各県を周遊してもらう広域観光を狙いに展開した。</li> <li>・誘客対策では新規に札幌駅及び函館駅で観光キャラバンを実施したほか、レンタカー周遊キャンペーンを実施した。</li> <li>・受入態勢整備では、新規にスクラッチキャンペーンや東日本高速道路株式会社と東北6県が連携したスマホスタンプラリーを実施した。</li> </ul>			
		経済商工観光部 観光課	取組9に再掲 震災復興 3②④ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		妥当	成果があった	効率的	維持	20,000	20,000	20,000	-		
2	2	県外向け広報事業	24,695	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				県外向けの広報番組を放送し、宮城の観光資源や食材・物産、復興の状況等をPRする。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・BSテレビによる広報番組の制作・放送 放送局:BS-TBS 放送時間:毎週月曜 19:54~20:00 放送回数:年51回(うち13回は再放送) 平均視聴世帯数:37万世帯(H28.4~12)</li> </ul>			
		総務部 広報課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		妥当	成果があった	効率的	維持	24,797	24,636	24,695	-		
3	3	外国人観光客誘致促進事業	23,628	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				海外からの観光客誘致促進のために各種プロモーション事業を実施する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾を対象に旅行博への出展や旅行会社等へのプロモーション活動のほか、現地サポートデスクを設置し、情報発信機能の強化を図り、本県の認知度向上に努めた。</li> <li>・特に台湾市場において力を入れている教育旅行の誘致活動では、9校約200人、インセンティブツアーでは5社1,000人の誘致に成功するなど成果があった。</li> </ul>			
		経済商工観光部 アジアプロモーション課	取組9に再掲 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		妥当	成果があった	効率的	拡充	6,078	4,850	23,628	-		
4	4	観光集客施設無線LAN設置支援事業	4,666	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				県内の宿泊施設、観光集客施設への無線LAN機器の設置を促し、パソコン、スマートフォンやタブレットなどの観光情報等の入手環境を向上させるため、機器を設置する事業者に対し補助を行う。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災で大きく減少した外国人観光客の利便性向上を主な目的として、宿泊施設や観光集客施設に無料公衆無線LANを設置する事業者への補助を実施した。(交付決定:18件, うち完了11件)</li> </ul>			
		経済商工観光部 観光課	地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		妥当	成果があった	効率的	拡充	3,831	1,685	4,666	-		

5	6	教育旅行誘致促進事業	3,437	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				高まりつつある宮城の知名度を生かしながら、更なるイメージアップを図り、国内からの観光客等の誘致を促進する。				・北海道を重点地域とした教育旅行誘致のため、現地において学校関係者等を対象にした説明会を開催した。 ・北海道地区及び九州地区の学校教員等を対象とした招請事業をそれぞれ実施した。			
6	7	秋の行楽みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～	-	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		経済商工観光部	取組9に再掲	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		観光課	地創1(1)⑨	妥当	成果があった	効率的	維持	3,994	3,854	3,437	-
		非予算的手法		事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				秋の紅葉の時期に、東北自動車道の国見サービスエリア内に観光案内所を開設し、本県観光地までのルート案内や見どころ紹介等観光情報の発信を積極的に行う。				・例年紅葉シーズンに実施している本事業であるが、平成27年度に引き続き、蔵王山の風評被害払拭のための取組に位置付け、時期を夏に前倒して実施した。 ・蔵王山麓への誘客を強力に図るため、蔵王山麓の市町(蔵王町・川崎町)や山形県とともに、8月中旬に臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行った。			
		経済商工観光部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課	地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	ある程度成果があった	-	維持	-	-	-	-
		8	162,627	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等の整備を促進する。				・蔵王レストハウスの給水設備及び発電機改修工事を行ったほか、世界谷地第一・第二湿原の木道改修(更新)整備を行った。 ・広域観光案内板の修正(22基)を行った。 ・ミニ観光案内所の看板について、劣化等した案内所への再設置・貼替(3基)を行った。			
		経済商工観光部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課	地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	概ね効率的	拡充	94,452	20,442	162,627	-
		9	6,582	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				平成2から8年頃に整備した東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な箇所には新しい案内看板を設置する。				・県立自然公園旭山に新たに案内看板1基を整備したほか、大和町七ツ森及び登米市石越の老朽案内看板等を更新した。また、大高森の展開案内板及び七ヶ浜の指導標(道しるべ)を更新するとともに、老朽化の著しい危険な案内看板等を撤去した。			
		経済商工観光部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課	地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	拡充	-	2,138	6,582	-
		10	71,783	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				東京オリンピックの県内開催等を踏まえ、外国人が安心して旅行しやすい環境の整備を行うための事業を展開する。				・多言語での観光案内看板の設置やWEBサイト制作のほか、インバウンド誘客施策の一環としてサイクルツーリズムガイドブック制作等を実施した。 ・県内各地でインバウンドの誘客に取り組む4団体に対し、Wi-Fiの整備促進のための支援を行った。 ・宿泊施設や飲食店向けに外国人観光客への接遇研修を実施した。			
		経済商工観光部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課・アジアプロモーション課	震災復興3②⑦ 地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	拡充	-	30,000	71,783	-

10	11	仙台空港600万人・5万トン実現推進事業	15,087	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				仙台空港の民営化を契機とした宮城・東北の地域活性化に向け、地元企業・関係機関等との連携を促進するとともに、「ヒト・モノ交流」の拡大とさらなる需要創出を図る。				・LCCと連携し、LCC旅行者層を対象とした観光資源の磨き上げや掘り起こしによる東北の新たなコンテンツの開発とそれを活用した誘客キャンペーンを実施した。			
		土木部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		空港臨空地域課	震災復興3②④ 地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	維持	34,813	22,177	15,087	-
11	12	地域産業振興事業	15,095	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				各地方振興事務所(地域事務所を含む)が各圏域の復興状況や課題を踏まえ、地域特性や農林水産物等の地域資源を効果的に活用し、市町村等と連携して早期復興や地域産業の活性化を図る。				・地域資源を活用した事業や地域産業の復興支援事業の実施(19事業) ※主な事業と成果 気仙沼・南三陸水産加工業人材確保・販路拡大事業 ・水産加工業者の従業員確保のため、関係団体等を構成員とする連絡調整会議を開催したほか、多様な働き方を促すためのモデル事業を実施した。			
		経済商工観光部	取組3 再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		富県宮城推進室		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	維持	15,762	17,427	15,095	-
12	13	グリーン・ツーリズム促進支援事業	3,615	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				都市住民と農山漁村の住民が、交流活動を通じて互いに支え合い、関係者全員が前向きに楽しく活動を継続できるグリーン・ツーリズムを目指し、推進環境の整備、人材育成、情報発信、地域活動の活性化に係る支援を行う。				・アドバイザー派遣の実施(15件)			
		農林水産部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		農村振興課	地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	維持	2,385	2,644	3,615	-
13	14	みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河)開催事業	14,900	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				県民に対して、優れた芸術文化の鑑賞と発表の機会を広く提供するとともに、被災市町等の学校や公共施設、福祉施設等に重点的にアーティストを派遣し、子どもたちを中心に地域住民が身近に芸術文化に触れ合うことのできる少人数・体験型の事業を実施する。				多くの県民が文化芸術に親しみ、活動のスキルアップなどにつながる取組となった。 ・音楽アウトリーチ事業 4,275人参加 ・美術ワークショップ 166人参加 ・舞台ワークショップ 3,542人参加 ・みやぎ芸術銀河作品展 400人参加 ・地域文化発信支援 276人参加 ・若手芸術家育成事業 3,543人参加 ・共催事業 214,647人参加(うち東北文化の日開催事業 134,724人来場) ・協賛事業 799,682人参加			
		環境生活部	取組23 再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		消費生活・文化課	震災復興6③② 地創1(1)⑩	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	維持	14,900	14,900	14,900	-
14	16	仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	15,390	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動により、県内への誘客を図る。				・仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用し、本県観光のPR活動により県内への誘客を図ったほか、県内においても仙台駅や仙台空港等において観光客へのお出迎え・お見送りといったおもてなし活動を実施した。			
		経済商工観光部		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	25,812	15,390	-

15	17	仙台空港おもてなし促進事業	13,608	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		仙台空港におけるおもてなしの強化や観光情報発信を強化することを通じて国内外からの観光客誘致を促進する。				・東北のゲートウェイである仙台空港において、国際線出口付近にある案内カウンターにて、仙台空港利用客へ観光案内業務を行った。					
		経済商工観光部	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)				
		アジアプロモーション課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	概ね効率的	維持	-	13,608	13,608	-
16	20	サインの多言語化表記による訪日外国人誘致促進事業	19,349	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		県内の集客施設等におけるサイン(案内表示、標識等)の多言語化表示を推進することにより、訪日外国人が安心かつ容易に移動し、視察や観光資源を楽しみ、また、良好な地域イメージを抱いていただける環境を醸成し、MICE(Meeting Incentive Convention Exhibition : イベントの総称)の誘致活動の円滑な推進及び地域の活性化促進を図る。				・宮城県総合運動公園(グランディ・21)内案内表示等の多言語化(英語標記の追加) ・県有施設では2020年オリンピックパラリンピックに向け、長沼ボート場への対応を検討していたところであるが、会場の改修については費用等を含め東京都との調整が必要である。多言語化の対応についてもその改修の中で行なうべきものであると判断し、当事業は廃止としたもの。					
		経済商工観光部	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)				
		取組26に再掲		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
		国際企画課	震災復興3②④ 地創1(1)⑨	妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	廃止	-	-	19,349	-
17	21	みやぎ農山漁村交流促進事業	8,026	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		農林漁業体験受入に取り組む地域グリーン・ツーリズム実践団体を対象とし、農山漁村における宿泊体験や情報発信PR活動等に係る事業費を補助し、震災復興や都市と農山漁村の交流促進を図り、新たなひとの流れをつくる。				・農山漁村絆づくり事業 申請団体数 4団体 取組学生数 1,151人 ・地域グリーン・ツーリズムPR事業 グリーン・ツーリズムPR誌作成 1,000部					
		農林水産部	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)				
		農村振興課	震災復興4①④ 地創1(1)⑨	妥当	成果があった	効率的	拡充	H26	H27	H28	H29
				69	2,943	8,026	-				
18	22	「観光力強化」のための交通環境整備事業	121,772	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		地理的条件や既存交通網を活用し、マイカーやバスで気軽に観光地へアクセスできる交通環境の更なる充実を図り、交通の利便性など観光に係る魅力や優位性を積極的にアピールできる交通環境を構築する。				交通規制センター制御エリアの拡充整備 ・集中制御式交通信号機への高度化改修 4基 ・情報収集提供装置の整備 24ヘッド ・交通情報板の整備 2基					
		警察本部	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)				
		交通規制課	地創1(1)⑨	妥当	成果があった	効率的	拡充	H26	H27	H28	H29
				-	-	121,772	-				
19	23	ハラール対応食普及促進事業	16,416	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		ハラール対応食の普及促進に向け、ハラール対応勉強会やハラール対応食試食会を開催するとともに、ハラールに関する情報発信を実施するもの。 また、ハラール認証取得やハラール製品製造に要する加工機器・資材費等の経費の補助を行うもの。				・セミナー・視察ツアーの開催(計4回) 延べ66社、87人参加 ・テストのためのムスリム試食会、モニターツアーの開催(計5回) 延べ17社参加 ・事業者向けハンドブック、レシピ集、トラベルガイドをそれぞれ作成(各1,000部)					
		農林水産部	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)				
		食産業振興課	取組3 再掲 震災復興4④⑥ 地創1(1)⑧	概ね妥当	成果があった	概ね効率的	維持	H26	H27	H28	H29
				-	-	16,416	-				
決算(見込)額計		560,676									
決算(見込)額計(再掲分除き)		514,265									



評価対象年度	平成28年度
--------	--------

政策	2	施策	5
----	---	----	---

取組に関連する宮城県震災復興推進事業											
評価番号	事業番号	事業名	平成28年度決算見込額(千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
1	1	観光施設再生・立地支援事業	14,148	被災した施設及び設備の復旧に要する経費及び施設を新規立地する経費等について助成する。				主に旅館・ホテル等宿泊施設に対して交付決定2件, うち完了1件。			
		経済商工観光部 観光課	震災復興3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29	
			妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	31,660	17,019	14,148	-	
2	2	自然公園施設災害復旧事業	4,010	東日本大震災により被害を受けた県内の観光施設の復旧と施設整備を推進する。				金華山遊歩道の整備を行った。			
		経済商工観光部 観光課	震災復興3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29	
			妥当	成果があった	効率的	維持	11,770	22,118	4,010	-	
3	3	松島公園津波防災緑地整備事業	140,210	防災対策を目的に県立都市公園松島公園を津波防災緑地として整備する。				繰越事業として第5駐車場(浪打浜)の南側の整備を進めたほか, 平成28年度事業として第1~第3駐車場の整備を行った。			
		経済商工観光部 観光課	震災復興3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29	
			妥当	成果があった	概ね効率的	拡充	22,620	107,462	140,210	-	
4	5	沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業	200,545	沿岸部で宿泊施設や観光集客施設の立地等により地域の交流人口拡大に貢献するモデル事業者を支援する。				震災で観光の回復が遅れている沿岸部に集客力のあるモデル的な宿泊施設・観光集客施設を設置する事業者に対して補助した。 (交付決定: モデル宿泊施設設置型2件, モデル観光集客施設設置型2件)			
		経済商工観光部 観光課	震災復興3②⑥ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29	
			妥当	成果があった	効率的	維持	-	314	200,545	-	
5	6	沿岸部観光復興情報発信事業	92,223	沿岸部の観光情報等を首都圏のマスメディア等を活用して発信する。				女川町出身の俳優・中村雅俊氏を起用したテレビ番組「伊達な海道紀行」を首都圏及び近畿圏で放送した。 (放送回数: 首都圏13回, 近畿圏4回) (平均世帯視聴率: 首都圏5.1%, 近畿圏4.9%) ・その他, 雑誌とのタイアップによる記事連載・新聞へのタブロイド折込等を行い, 沿岸部の観光や食に関する情報を発信した。			
		経済商工観光部 観光課	震災復興3②⑥ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29	
			妥当	成果があった	効率的	維持	-	99,874	92,223	-	

6	7	唐桑半島ビジターセンター映像機器等再整備事業	919	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		唐桑半島ビジターセンターの映像機器等を整備し、利用者の利便性の向上を図る。				・唐桑半島の漁業・地震及び防災等について紹介するレーザーディスクライブラリー映像機器の修繕を行った。 ・整備が完了し当初の目的を達成したため、平成28年度に事業を廃止した。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	廃止	-	-	919	-
7	8	航空会社と連携した観光キャンペーン事業	87,554	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		航空機を利用した誘客強化を図るため、航空会社と連携した航空版の観光キャンペーンを展開する。				・平成28年度は、仙台空港就航国内線全路線をキャンペーンの対象路線として、本県の認知度拡大を図るため、メディアや新聞、Webサイト等の手法による情報発信を行うとともに、オープニングイベントや観光物産PR等のイベントを実施した。この結果、搭乗者数が前年同時期比で約28,000人増加した。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②⑧ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	縮小	-	53,122	87,554	-
8	9	地域産業振興事業(復興推進型)	12,865	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		地域課題に精通している各地方振興事務所の企画提案による地域産業復興のための事業を、外部団体のネットワークやノウハウも取り入れた形で実施する。				・地域資源を活用した事業や地域産業の復興支援事業の実施(7事業) ※主な事業と成果 大崎地域観光推進事業 ・ゲーム形式を取り入れた体験型イベントを開催し、大崎圏域の「食」と「温泉」の魅力を若年層に周知することにより、宿泊客の増加を図った。					
		経済商工観光部 富県宮城推進室	震災復興 3②④	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	縮小	-	-	12,865	-
9	10	観光復興緊急対策事業	5,530	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		震災により県内観光に大きな影響が生じていることから、県内外からの誘客を早急に進めるため、正確な観光情報の提供や誘客キャラバン等を実施する。				・震災により観光客入込数及び宿泊観光客数が減少している三陸地域の観光素材を中心に、新聞や雑誌に記事や広告を掲載するほか、観光パンフレットの修正・増刷などを実施した。 ・観光ガイドブック「極上旅みやぎ」を45,000部修正・増刷。 ・みやぎの温泉ガイドブック30,000部を製作。 ・新聞3紙及び雑誌等に広告を掲載した。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②④	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	8,330	5,697	5,530	-
10	11	外国人観光客災害復興緊急誘致促進事業	11,350	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		震災の発生以降、大幅に減少している外国人観光客の積極的な誘致を図るため、観光地の復興等について正確な情報を提供するとともに、海外において誘客プロモーションを行う。				・東京都や北海道と連携した上海・大連でのセミナー及び商談会のほか、旅行会社やメディア等の招請事業を行うなど、正確な情報発信を行い、回復が遅れている中国からの誘客を行った。					
		経済商工観光部 アジアプロモーション課	取組9に再掲 震災復興 3②④ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	拡充	5,925	12,756	11,350	-

11	12	みやぎ観光復興イメージアップ事業	2,998	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		震災の発生に伴い、県内の観光にも大きな影響が生じていることから、本県のイメージアップや県内への旅行意欲の喚起を図るため、JR等と連携した首都圏PRを行う。				<ul style="list-style-type: none"> <li>石巻圏域・気仙沼圏域の沿岸部観光客入込数は震災前の約7割にとどまっているため、観光客入込数の回復・増加を目指し、JR東日本等と連携し首都圏を中心に積極的なPRを行った。</li> <li>7月7日、8日の2日間、JR大宮駅、秋葉原駅、横浜駅、東京駅、八王子駅、品川駅、新宿駅、船橋駅、有楽町駅、池袋駅において観光キャラバンを実施した。</li> <li>3月2日、3日、丸ビル1階マルキューブ(千代田区丸の内)において開催された「マル・デ・ミヤギ」において観光PRを実施した。</li> </ul>					
12	14	風評被害等観光客実態調査事業	4,050	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		経済商工観光部 観光課	取組9に再掲 震災復興 3②④	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
13	15	仙台空港活用誘客特別対策事業	3,159	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		仙台空港就航地において、航空会社とも連携した観光PR活動を実施し、誘客を促進する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査、関東・関西在住者へのWebアンケート調査及び県内観光事業者(宿泊・飲食・物販業等)の実態調査を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>					
14	16	県外観光客支援事業	39,000	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②④ 地創1(1)⑨	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
15	18	仙台空港おもてなし促進事業	13,608	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		仙台空港におけるおもてなしの強化や観光情報の発信を強化することを通じて国内外からの観光客誘致を促進する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>東北のゲートウェイである仙台空港において、国際線出口付近にある案内カウンターにて、仙台空港利用客へ観光案内業務を行った。</li> </ul>					
		アジアプロモーション課	震災復興 3②④	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	概ね効率的	維持	-	13,608	13,608	-
				妥当	成果があった	概ね効率的	維持	15,534	2,112	3,159	-
				概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	4,131	6,547	2,998	-
				概ね妥当	成果があった	概ね効率的	維持	3,942	6,988	4,050	-
				妥当	成果があった	効率的	統合	15,534	2,112	3,159	-
				妥当	成果があった	効率的	維持	-	39,500	39,000	-

16	19	観光復興映像制作事業	7,992	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		営業を再開した施設や新たに始まった取組など、震災復興への歩みを進める県内観光地の今を伝えるDVDを制作し、観光イベントや物産展などにおいて観光PRを実施する。				・本県各地域の四季の魅力を伝える映像を制作した。今後、開催される観光イベントや物産展等において、PRに使用していくこととしている。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②④	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				妥当	成果があった	効率的	縮小	-	-	7,992	-
17	25	仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	15,390	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動により、県内への誘客を図る。				・仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用し、本県観光のPR活動により県内への誘客を図ったほか、県内においても仙台駅や仙台空港等において観光客へのお迎え・お見送りといったおもてなし活動を実施した。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②④	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	25,812	15,390	-
18	27	魅力あふれる松島湾観光創生事業	9,741	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
		松島湾エリアの3市3町と連携して観光資源の発掘と磨き上げを行い、広域連携による観光地域づくりに向けた事業を展開する。				・松島湾ダーランド推進計画に盛り込まれた「観光地域づくりを支える人材育成」の取組の一環として「松島湾次世代観光人材育成塾」を実施したほか、松島湾エリアの3市3町と県が共同で実施する「伝統芸能披露イベント」といった事業を実施し、松島湾エリアの連携を深め、魅力ある観光地づくりに努めた。					
		経済商工観光部 観光課	震災復興 3②④ 地創1(1)⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
				概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	26,190	9,741	-
決算(見込)額計		665,292									
決算(見込)額計(再掲分除き)		665,292									